



能登の復興応援プロジェクト

つなぐ石川の酒

- TSUNAGU ISHIKAWA -

2024年3月10日（日）より順次発売

石川県酒造組合連合会

ラベルデザイン：パッケージ幸福論

この度の令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被害にあわれた皆様、ご家族の方々にお見舞いを申し上げます。被災地の方々は不安な日々をお過ごしのことと存じます。皆様の安全と、被災地の一日も早い復旧を心より祈念いたします。

この度、石川県酒造組合連合会とご縁で、私たちパッケージデザイナーのグループ「パッケージ幸福論」（ディレクター：なかじましんや）の14名は、「能登の復興応援プロジェクト」で発売される日本酒のラベルデザインを協力する運びとなりました。

日本酒の蔵元にとって、年末から年始にかけては秋に収穫された新米をつかって新酒を仕込む時期です。

この度の能登地方での地震では、その酒造りのさなかに石川県酒造組合連合会（会長：山田英樹）に所属の33の蔵元のうち、11の蔵元が全壊または半壊し、酒造りができない状況に追い込まれたとのこと。

そこで、被害のなかった、または少なかった18の蔵元が集まって、能登の仲間を助けるために力をあわせて「能登の復興応援プロジェクト」を立ち上げました。

1月下旬、『小山薫堂 東京会議』（BSフジ）の中でこのプロジェクトのことが議題となり、ラベルデザインを「パッケージ幸福論」が担うことが決定。

そしてすぐに「パッケージ幸福論」メンバー全員がデザインに取り掛かり、2月11日に30を超えるデザインを石川県酒造組合連合会に提案しました。

結果、石浦弘幸さんのデザイン案が採用されることとなりました。

3月10日（日）より順次、18の蔵元よりこのラベルを貼った日本酒が発売され、その売上げの一部は義援金として寄付されます。

・石川県酒造組合連合会（<https://www.ishikawa-sake.jp/>)

このラベルの製作は、BSフジの番組「小山薫堂 東京会議」の企画として制作されました。

CMディレクターなかじましんやさん率いる「パッケージ幸福論」メンバーの皆様による提案の中から、石浦弘幸さんのデザインを採用させて頂きました。

石浦さんと印刷会社の高桑美術印刷さんには、多大なご協力を頂きました。

この素晴らしいラベルが、能登復興のシンボルの一つとなる事を私たちは願っています。

・つなぐ石川の酒 -TSUNAGU ISHIKAWA-

一片のつながる折り紙で表現された石川の形は、一致団結した酒蔵相互の絆や復興に向けた県民の想いが込められている。

日本古来の文化である紙＝神への祈りの表現と、幾何学的でモダンな表現をあわせ持ち、伝統を踏まえつつ未来につなげる新しい日本酒を表現している。アイコンは銘柄ごとに色を変え、復興という同志のもと、各酒蔵の多様性を表現している。

石浦弘幸 サントリーデザイン部 クリエイティブディレクター

1968年富山県生まれ。1991年金沢美術工芸大学卒業後、サントリー入社。缶コーヒーBOSSをはじめ、様々な商品デザインにコンセプト開発から携わる。

金沢美術工芸大学客員教授 日本パッケージデザイン協会理事



・パッケージ幸福論

故 鹿目尚志さんに声を掛けられ集まったパッケージデザイナーのグループ。「デザインと人との幸福な関係を探る・パッケージデザインの新しい可能性を探る」という問いを立て、2008年から展覧会開催を中心に16年ほど活動が続けています。

メンバーは普段は花王、資生堂、コーセー、サントリーなどの企業やGKグラフィック、サン・アドなどのデザイン制作会社で働いています。

・お問合せ先：「能登の復興応援プロジェクト つなぐ石川の酒 -TSUNAGU ISHIKAWA-」について

山崎 茂（パッケージ幸福論） E-mail: s-yamazaki@kose.co.jp TEL. 090-9386-1557